

ともじ通信

賀川記念館長

賀川督明さんのちよつといひ話

持続可能な社会をめざし、暮らしの創造と実践について提案したい



賀川 督明さん
(かがわ とくき)

1953年東京生まれ。デザイナー。2004年から自作した山梨山の自然住宅に拠点を移し活動。賀川豊彦の活動開始100年を機に「賀川豊彦身体100年プロジェクト」を立ち上げ。2008年、神戸にも拠点を設ける。2010年神戸の賀川記念館館長に就任。社会福祉士・大学校入学生・EBC講師。神戸市議員・福祉社社務員。兵庫県ユニセフ協会理事。カワデザインワークスジョブズ有限会社代表。2012年全国新聞協同組合実行委員会。

「よりよい社会づくり」のために生涯を捧げた、社会運動家・賀川豊彦。コロナへの前身為、賀川の指図した「暮らしの創造と実践」をめぐって。賀川豊彦の志を引き継ぎ、コミュニティセンターとして地域福祉に努め、現代社会をさまざまな問題に取り組み「賀川記念館」館長の賀川督明さんにお話を伺いました。

協同組合は暮らしを創造する力がある

いま、私がかけているのは「1人1万円」の運動です。1人1万円の募金によって被災地への支援を続けていく取組みで、「1」は、3日

ません。現にフィンランドの木造建築物の建て替で、イクルは1500年だし、そもそも日本には築200年や300年という民家多数存在しています。長寿で本来、半公共物だった住宅が、いつの間にかハリボテになり、洋服やクルマのように消費される時代になってしまいました。生協では、梱包材の使用を減らすことで、資源の節約に懸命に取り組んでいます。それが大切ですが、住宅・軒を意識してつくったら、ものすごいエネルギーや資源の有効利用につながると思います。暮らしの全体の中で、これだけやるべき事例、つまり家政学にも

街頭募金をおこなっていますが、それに限らず、それぞれの団体や個人、やりやすい方法で始めてもらえたいと思います。

集まった募金を被災地に携え、学生たちは現地に出かけます。今の時代は阪神淡路大震災以降、幼稚園生ぐらいで、震災体験はありけれど、復興のアリアリに乏しく、親たちの気持ちについていけないかたがたですね。東日本の被災地を訪ねることで、そこが、このことなんだ」というアリアリはまだ復興していない、痛みを持っている人がいる、ということに気づいたのではないのでしょうか。だから今年の「1・17」には初めて参加した若者が多かったです。東日本に思いを。若者は東日本に送ります。若者は現地の復興支援に限らず、神戶の次代をつくる人たちの育成につながるのではないのでしょうか。息長く取り組めるしくみをめざしたいです。

フクシマの原発事故以降

と関心を持ち、進化させるべきではないでしょうか。私はインテリアや家事など、オコにしている家庭内の事柄が好きです(笑)。賀川の家風がそうでした。人は、工夫をつみ重ねると、その豊かさには、なにひたにもおびやかされることとして残っていきます。性善や年齢に関係なく、家庭の中にも工夫を取り戻すようなプログラムを提案したいと思っています。

ボランティアは家族と社会をなくハブ役

組合員活動や賀川記念館

地域活動において、最近とくに感じるのは、夫婦関係のありかたです。夫婦が愛し合う関係にないと、子どもがうまく育たず、親密圏が希薄だと、子どもはありのままの自分を見せず、立ち入ることも許さないと。いうように、人と人の深い関わりを拒否してしまいます。住宅同様、夫婦や親子の関係もハリボテになってしまつたというところ……。家族間のコミュニケーションが乏しいと、どんなにすぐれたプログラムを提案しても、うまくいかないものです。社会の最少単位である家庭を心地よくし

これまで中央集中でやってきた取り組みを分散すべきまりつてあります。エネルギーだけでなく、食糧分野や下水道など、幅広い分野において……。そのほか持続可能であるのなら、賀川記念館として放つておけません。私たちに、今を生きている人だけでなく、これから生まれてくる人たちも含め、暮らしの創造について取り組んでいくという基本姿勢があるのです。おりしも、2012年の国連の国際デー「すべての人のための持続可能なエネルギーの国際年」と「国際協同組合年」です。その



賀川記念館(神戸市東灘区) 1 2012年2月、神戸市東灘区東灘1-4-2に賀川豊彦の活動拠点として賀川記念館を開設。3階は賀川豊彦の活動拠点として賀川記念館を開設。3階は賀川豊彦の活動拠点として賀川記念館を開設。

たり、社会との関係性を紡いでいくのがボランティアの役割であったらいい。ボランティアは、生活の一部としてごく当たり前に存在していますが、実はそのごく重要なポジションにある

せいか、最近では協同組合に関する講演依頼が多く、私は外野人間として、ある意味無責任といつか(笑)。非常に刺激的な提案を支える運動体なのですが、合員がいづつくるようになり、起こすをおこなつてほしいと思います。上からさせる形で、部門にしなるとは、メンバーメントになりていく、たとえば、原発に反対するだけでなく、生産者の側に戻り、エネルギーを生産組合をつくるのか、そのような掛けが必要に思いますね。

家庭の中、工夫を取り戻し、豊かな暮らしを

生協が支えようとする暮らしは、意外にもたくさんある。以上にもたたくエネルギーの有効利用については、住宅もまた問題です。日本本の二戸建て住宅です。目本サイルは約25年といわれ、世代限りの消耗品となつてしまつた。木造建築物の寿命が短いわけであり、

講座名	対象・内容	共催(予定)
パリエーション基礎講座	認知症の方とのコミュニケーション技法である「パリエーション」の基礎を学び理解を深める	コープ活動センター 神戸北
パリエーション演習講座	基礎編を終了された方を対象にパリエーションの考え方を活動や生活活動に活用していきよう演習を通して学ぶ	コープ活動センター 神戸北
細聴ボランティアフォローアップ講座	細聴活動を続けていく中で必要とされる技術のスキルアップや疑問・悩みなどを解消して新たに活動に活かしていきよう、振り返りながら学ぶ	コープ活動センター 宝塚
セルフヘルプセミナー	セルフヘルプグループの活動報告をもとに、当事者の経験や悩みから、セルフヘルプについて理解を深めるとともに生活活動のつながりや交流を図る	(特約)ひよこが丘セルフヘルプセンター 生活文化・福祉部
子育てひろば	子育てひろばは子育て世代の保護者や子どもを対象に子育ての悩みや不安を解消し、地域でのつながりや交流を図る	生活文化・福祉部
親子で学ぼう防災講座	地域の子どもや保護者や子どもを対象に自然災害の発生や被害の軽減について学ぶ	コープ活動センター 宝塚

*観望園:愛情を基盤とした集合体。その最小単位は家庭。